

今戸焼 干支人形

富士ふじみ巳



私が通った富士小学校の向かいには、「お富士さん」と呼ばれ親しまれている浅草富士浅間神社(浅草五)があります。

江戸時代、各地の浅間神社では、蛇は水神である龍の使い(仮の姿)といわれ、授与所で頒布される「麦藁蛇(むぎわらじゃ)」を携えて境内の富士塚に登り参詣する様を吉祥の図様「富士越龍(ふじこしのりゅう)」にかけて「不時(富士)を絶つ(辰)」として、「時ならざる事(災厄)を絶つ」と縁起を担ぐ人達で賑わったようです。今は水にまつわる災難除けの御守りとして「麦藁蛇」を年毎に家庭内の水道の蛇口や水回りに祀る風習が継承されています。

このたび、息災と安泰を願い、巾着・鑢鉞(にようはち)・丁子(ちようじ)・びんざさら・笙(しょう)・法螺貝(ほらがい)・宝巻、の七つの宝が繋がって、楽土の妙音が吉祥となり、雲になった蛇が富士山を越える今戸焼の新作干支人形「富士巳(ふじみ)」を作りました。

皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます

今戸焼 白井

六代 白井 裕一郎